

シンポジウム： 「建築関連分野の地球温暖化対策ビジョン2050」 ～行動計画の策定に向けて～

I P C C 第4次報告書、C O P 1 5等を受けて、C O 2排出削減に向けた議論が高まりを見せている。そのような中、建築関連17団体は、提言「建築関連分野の地球温暖化対策ビジョン2050」をまとめ、建築分野のカーボンニュートラル化実現に向けて第一歩を踏み出した。C O 2排出削減が人類にとっての最重要課題であることは言うまでもないことであるが、その解決に向けた道のりが容易ではないことも明らかである。その意味でも、今般建築関連17団体自らが、この提言をまとめた意義は極めて大きいと言える。今後は、この提言を受けて、その実現に向けた行動計画をどのようにまとめるかが、建築分野カーボンニュートラル化実現に向けての鍵となる。

本シンポジウムは、提言を踏まえて各学協会が、今後どのように考えどのような行動に結び付けるかについての意見交換を行い、建築関連分野のカーボンニュートラル化を現実のものするための課題を明らかにし、その解決に向けての行動計画のあり方について討論する。

記

- 主催：日本建築学会・地球環境委員会
- 日時：1月29日（金）13:00～17:00
- 会場：建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）

<プログラム>

司会： 稲田達夫（三菱地所設計 地球環境委員会委員長），三浦秀一（東北芸術工科大学）

記録： 太田浩史（東京大学）

- (1) 主旨説明： 吉野博（地球温暖化対策会議主査、日本建築学会副会長、東北大学）
- (2) J I Aの行動計画－専門家に向けた環境教育－ 中村勉（日本建築家協会、工学院大学）
- (3) 建設業の視点から（仮） 岩本和明（建築業協会、清水建設）
- (4) 都市計画の視点から 竹内直文（日本都市計画学会、(財)民間都市開発推進機構）
- (5) 建築物の長寿命化に向けた取組み 今泉晋（建築・設備維持保全推進協会）
- (6) 建築設備の視点から 川瀬貴晴（建築設備技術者協会、建築設備総合協会、千葉大学）
- (7) 国際建築家連合とC O P 1 5 岩村和夫（東京都市大学）
- (8) 全体討論
- (9) まとめ： 村上周三（建築研究所）

- 定員： 150名（当日先着順）
- 参加費： 会員2,000円、登録メンバー2,500円、会員外3,000円、学生1,000円
（資料代を含む）
- 問合せ： 事務局研究事業G 森田
E-mail： morita@aij.or.jp Fax：03-3456-2058